

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

2025 Jul.

Vol. 131



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

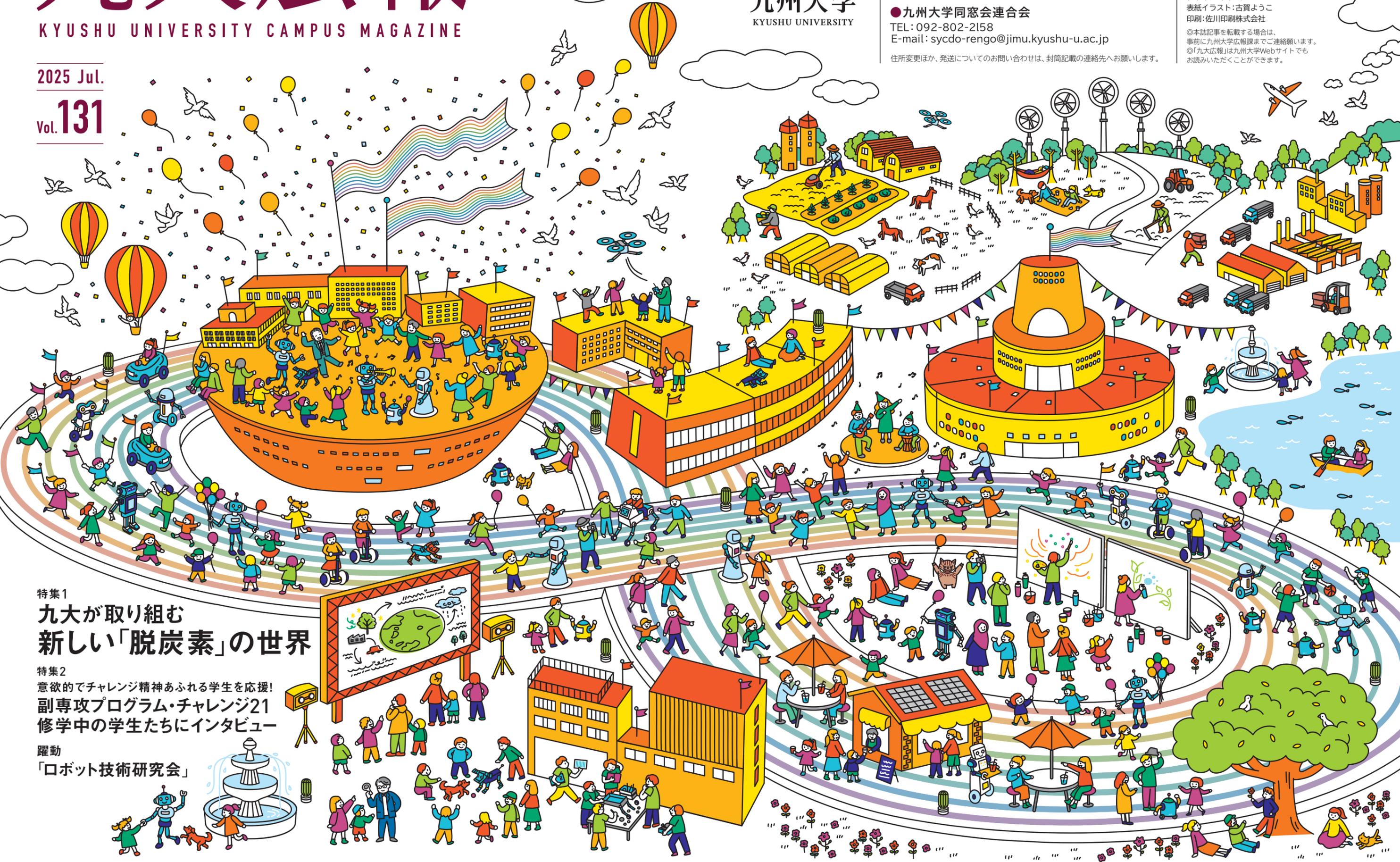
●九州大学広報課
TEL: 092-802-2130
E-mail: koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

●九州大学学生後援会
TEL: 092-802-5968
E-mail: gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

●九州大学同窓会連合会
TEL: 092-802-2158
E-mail: sycco-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

編集・発行:九州大学広報課
〒819-0395福岡市西区元岡744
Webサイト: <https://www.kyushu-u.ac.jp/>
編集協力・取材:佐々木恵美、クレマデス海上愛、
矢野美恵子、株式会社角川アスキー総合研究所
校閲:ひいた、株式会社角川アスキー総合研究所
撮影:株式会社バンフィールド
デザイン:タダミヨコ
表紙イラスト:古賀ようこ
印刷:佐川印刷株式会社
◎本誌記事を転載する場合は、
事前に九州大学広報課までご連絡願います。
◎「九大広報」は九州大学Webサイトでも
お読みいただくことができます。

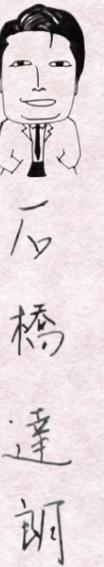


特集1
九大が取り組む
新しい「脱炭素」の世界

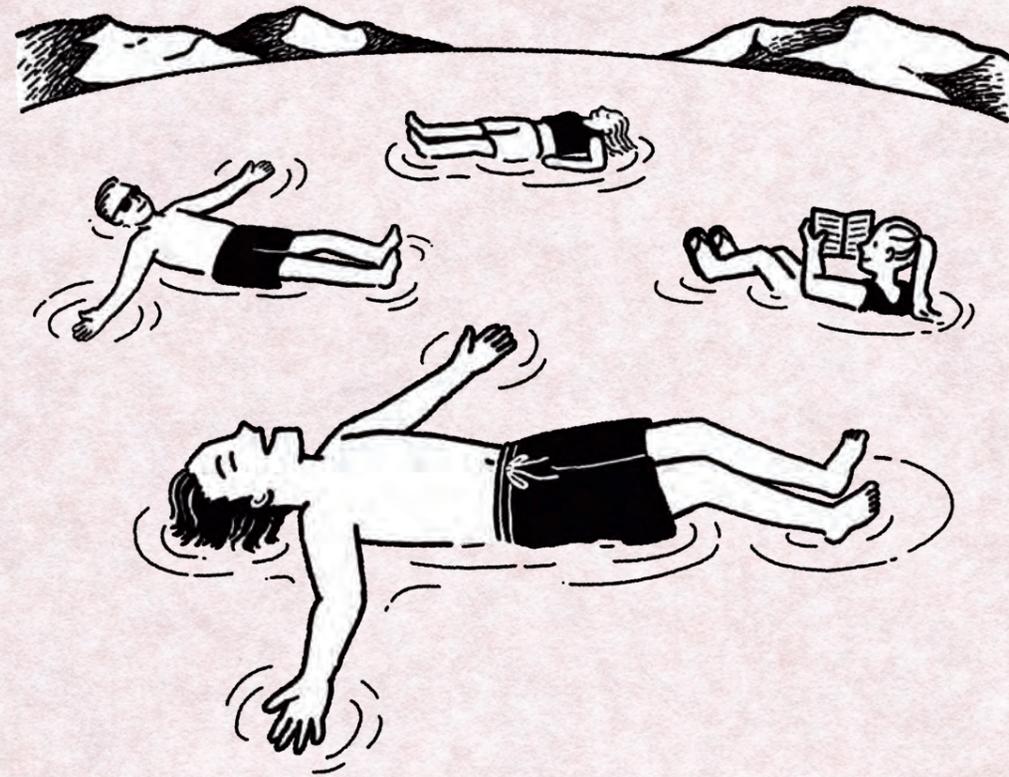
特集2
意欲的でチャレンジ精神あふれる学生を応援!
副専攻プログラム・チャレンジ21
修学中の学生たちにインタビュー

躍動
「ロボット技術研究会」

総長の「旅」



このコーナーでは、総長への取材をもとに、総長個人としての思いやこだわりなど、プライベートな一面をリアルなエピソードとともにお伝えします。



若き日の思い出の地

作家・沢木耕太郎の「深夜特急」では

世界各地を旅する様子が描かれていますが、

総長もそれに負けないくらい色々な地を訪れているようです。

「ほとんど出張よ」と笑う総長ですが、

これまでの旅先を尋ねるとエルサレム、レイキャビク、サンモリッツ、ケープタウン、タオルミーナ…と次から次へと地名が出てきます。

なかには、あまり知られていないような場所もちらほら。

そんな総長が最も印象に残っているのは30年ほど前に訪れた

「Dead Sea(死海)」。

イスラエルとヨルダンの国境沿いに位置する塩湖です。

「やっぱり浮いたよ」と当時の驚きを懐かしそうに話してくれました。

学会仲間と過ごした、素敵な思い出のようです。

一方、国内での旅について聞いてみると「家族で時々京都には行くね」との答え。

出張ばかりと言っていた総長でしたが、

家族との時間も大切にされているんですね。

最後に、もう一度訪れたい地を尋ねたところ、「ロサンゼルス」が挙がりました。

旅ではありませんが、実は総長は30代の頃、

ロスにある南カリフォルニア大学に留学経験が。

当時すでに結婚しており、お子さんもいたそうで、

ロスは「家族の思い出の地」なのだとか。

「また行きたいね」と語る総長の柔和な表情が印象的でした。

2025年3月4日

CONTENTS Vol.131 2025 Jul.

01 [九大の舞台裏] 総長の「旅」

03 特集1 九大が取り組む新しい「脱炭素」の世界

07 特集2 意欲的でチャレンジ精神あふれる学生を応援! 副専攻プログラム・チャレンジ21 修学中の学生たちにインタビュー

09 [躍動] ロボット技術研究会

11 世界から九大へ 九大から世界へ

13 現役九大生が聞きました! 卒業生インタビュー

15 CLOSE UP! 九大 原子力アート研究を通して戦後80年を考える

18 Museum Report ミュージアムDX 第一弾

19 同窓会通信 農学部同窓会

21 九州大学基金

23 九大LOVEWalker~筑紫キャンパス編~

COVER STORY



九大広報131号の表紙は、前号までのイメージを一新し、イラストで表現してみました! 今話題の「大阪・関西万博」をメインに、「脱炭素」「ロボット」「平和」など今回の特集に関わるキーワードを盛り込んでいます。「総合知で社会変革を牽引する大学へ」というスローガンのもと、九州大学が未来を社会と共に築いていく思いも込めました。イラストの中には石橋総長や、NHK「魔改造の夜」に出演した「ロボット技術研究会」のメンバー、九州大学に出没するキャラクターの「Qボー」もどこかに…?ぜひ探してみてください!

INFORMATION

「九大フェスタ in 東京」を今年も開催いたします!!

開催日 2025年8月29日(予定)

会場 東京ミッドタウン八重洲カンファレンス

※詳しい情報は、九州大学公式ホームページおよびSNSに掲載予定です。

昨年は台風の影響で開催をオンラインに切り替えたイベントもありましたが、皆様からご好評の声をたくさんいただきましたので、今年も「九大フェスタ in 東京」を開催いたします! 開催内容は決まり次第、本学のホームページやSNSで発信いたしますが、九州大学を東京で体感できる魅力あふれるコンテンツを用意していますので、ぜひお気軽にご参加ください。



九大が取り組む新しい「脱炭素」の世界

九州大学は2010年にカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所を設立して以降、脱炭素へ向け様々な取り組みを行っています。

今回は、大阪・関西万博で研究内容が展示中という、藤川茂紀教授に話を伺いました。

大阪・関西万博で展示されているって本当ですか!?

展示でCO₂回収による素敵な生活を感じてほしい

万博では、日常生活でCO₂を使ったら...という未来像を展示で表現しています。プロジェクトマッピングなどを使い、スミ(炭)さんの1日の生活が見られるという仕掛けになっています。例えば、蛇口を捻ると炭酸水が出る、貯めたCO₂を植物に吹きかけると植物が成長する(CO₂濃度が高いと植物はより成長)など。CO₂回収による素敵な未来を感じてもらえると思います。今後の課題の一つは、地球温暖化対策やCO₂回収に役立ち、かつ、「多くの人に利用したいと思ってもらう」ことだと考えています。例えば、現在、普及している炭酸メーカーはCO₂(ポンペ)を使った商品です。これを使っている方は恐らくメリットを感じて使用しているのであり、「CO₂を使って地球温暖化対策に貢献する」ということを考えて使っているわけではないと思います。その視点が大事だと教えてくれたのは、私の妻と本学芸術工学研究院の尾方教授です。妻は消費者目線で忌憚なき意見をくれ、ありがたかったですね。



本学は大阪・関西万博の「グリーン万博」にサプライヤーとして協賛。藤川教授の展示は「RITE未来の森」で行われている

DAC-U®システムの未来を教えてください

「CO₂の地産地消」を実現し、炭素資源循環社会を目指す

「多くの人々が利用したくなる」という点は社会実装に向け重要です。DAC-U®システムの小型化や分散装置について芸術工学研究院の尾方教授に相談したところ、技術を生活に落とし込んで具現化してくれ、家庭用カーボン回収機の共同研究・モデル製作へとつながりました。このことから研究成果を一般社会へ普及させるためのデザインの重要性を感じました。2023年にはDAC-U®システムを活用した装置・製品の実用化を目指しCarbon Xtract株式会社を設立しました。ちなみに、本学初の出資・事業参画企業でもあり、様々な企業と組んで、m-DAC®の実装や実証事業を行っています。例えば、JR西日本の弁天町駅に分離膜で回収したCO₂を使う「都市型

野菜棚」の実証試験を行っています。また福岡でも2025年春から、九州電力、双日九州、農研機構とm-DAC®を使った次世代の環境配慮型施設園芸の確立に向け実証事業をスタート。これからオフィスビルや、それぞれ大学へのDAC-U®システムの設置も始めていきたいなど。地下などでCO₂をメタンに変えておけば、非常用の電源になるので、災害対策としても役立ちます。この技術を使った未来...ですが、講義で学生にもアイデアを求めたところ、「炭素回収バス」などの案が出ました。そういうのもおもしろいですよね。私自身も、分離ナノ膜を細胞膜と同じくらいの10nm以下にしたい!という目標へ突き進んでいきます。



DAC-U®システムが分散配置された地産地消型の炭素資源循環社会を目指す

芸術工学研究院芸術工学部の尾方教授と共同開発した「家庭用カーボン回収機(模型)」



TALK

地球温暖化とエネルギー問題を同時に解決! 画期的な「分離ナノ膜」によるCO₂回収



カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 藤川 茂紀 教授

1999年九州大学大学院工学研究科分子システム工学専攻 博士課程修了(工学博士)。イェール大学留学などを経て、2011年本学I²CNER准教授、2012~2020年I²CNER部門長を経て、2021年4月から現職。Carbon Xtract株式会社の取締役兼CTOも務める。

まずは藤川教授の研究内容を教えてください

世界発! CO₂分離ナノ膜の開発に成功

CO₂の排出抑制に加え近年注目されているのが、大気中のCO₂を回収して活用する「ネガティブエミッションテクノロジー」です。CO₂回収(Direct Air Capture、以降DAC)自体はすでに始まっていますが、それらは吸収液や吸着剤を利用して回収するというもの。ただ、これでは大規模設備のほか、CO₂再回収時に大きなエネルギーが必要で、手間やコストがかかるなどの課題もあります。そこで注目したのが膜による分離です。膜分離はCO₂再回収が不要で、装置も小型化できると考え、無欠陥で圧倒的な選択透過量を誇るCO₂分離ナノ膜の開発を成功させました。

脱炭素って? CO₂排出をゼロにすることです。ただ、炭素は私達の生活に欠かせないものなので、ここでは「全く排出しない」ということではなく、CO₂排出量が吸収量をオーバーしている状況から脱却するというところに焦点を当てています。



CO₂分離ナノ膜は34nm(ナノメートル)で食用ラップの1/300程度という薄さ!

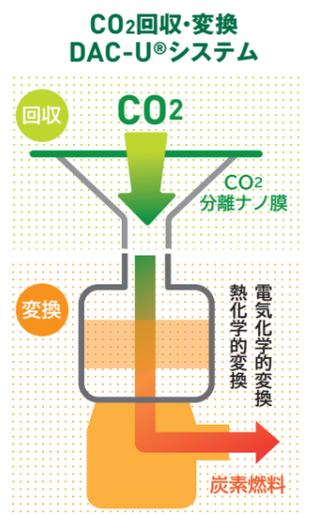
「膜によるCO₂回収」ってどういうこと?

「分離ナノ膜」を使ったCO₂回収技術は、さらに新システムの創出へ

CO₂は0.31nmという極小物質で、分離対象となる窒素や酸素もこれに近いサイズです。ただし、これらを膜で正確にふるい分けるためには、隙間があったり破れたりすることがあってはいけません。そこで私達のチームは研究を重ね、膜厚34nmという薄さであるにもかかわらず、無欠陥で圧倒的な選択透過量を誇るCO₂分離ナノ膜を開発しました。さらに、選択性をより向上させれば、CO₂濃度も1,000倍以上に濃縮可能ということもわかってきました。分離ナノ膜によるCO₂回収(m-DAC®と命名)は、大規模な設備が必要なく、小型化・分散配置ができ、場所も選びません。いろいろな規模で導入可能であることも、メリットの一つです。

また、研究を進める中で、その分離膜を用いて大気からCO₂を回収し、化学的変換を行い、炭素燃料製造まで連続・一貫して行う「分散型Direct Air Capture and Utilization(DAC-U®)システム」の開発にも取り組んでいます。このシステムは、分離膜で大気中から回収・濃縮したCO₂を変換して、メタン、アルコール、エチレンなど多様な物質を生み出すことができる大変画期的なシステムです。

とにかく「膜の薄さ」にこだわりました!



膜分離によりCO₂を直接回収・濃縮させ、回収したCO₂から炭素燃料を製造するという2つの最先端テクノロジーが集結したシステム



DAC-U®, m-DAC®は九州大学の登録商標です

研究室の学生に聞いた



藤川教授や研究室ってどう?

Q.1 藤川教授の印象は?

とにかく「好きなことをやれ」といつも言ってくれます。社会人になると失敗が許されなくなるからこそ学生のうちにたくさん失敗して経験を積むように、と。一見怖そうですが(笑)話したら楽しい先生です。

工学府応用科学専攻 分子生命工学コース 藤川研究室 D2 松本 昂大さん

Q.2 研究内容について、未来像を教えてください

今後は炭素資源のリサイクルも行われていくと思いますので、炭素を循環させるためのツールとしてもCO₂が使えるようになったらいいなと思います(松本さん)。研究室ではCO₂を90%以上に濃縮することを目標にしています。僕はお酒が好きなのでCO₂をエタノールにし、それでお酒を作りたいですね(留場さん)。

Q.3 留場さんは、今年4月から、サポートスタッフとして藤川教授を支えているそうですね

はい。ただ、万博期間中は研究室ではなく、ずっと現地担当として会場にいます!

工学府応用科学専攻 分子生命工学コース 藤川研究室 B4(取材時) 留場 亮さん

TALK 2

「脱炭素」など複雑化する問題には 英知を集結させて挑んでいく

藤川教授の研究やアイデアに共感してデザインしました

芸術工学研究所(取材時)というところに加え、ともに「環境省 脱炭素型循環経済システム構築促進事業」のメンバーでもあった尾方義人教授と早淵百合子教授に、「脱炭素」への取り組みについて伺いました。

近年、注目を浴びている「マテリアルリサイクル」

—お二人が参加されていた「脱炭素型循環経済システム構築促進事業」について教えてください。

尾方 芸術工学研究所の近藤加代子教授を中心に、研究者、企業、自治体と協力し、プラスチックが生活に戻るリサイクルの実

現に向け、活動をしていました。

早淵 プラスチック燃焼時に出る熱や蒸気をエネルギーとして回収し発電などに利用するリサイクル法を「サーマルリサイクル」と言いますが、燃焼時のCO₂排出などの課題がありました。そこで近年は、「マテリアルリサイクル」が推進されています。政府も、廃プラスチックから作る再生プラスチック製品が売れるマーケットの登場がその普及につながると考えており、今回の実証事業の採択に至ったと思います。

尾方 この実証事業では、南筑後を中心に自治体の協力を集めた廃プラスチックをどうするかというところで、環境に関する様々な専門家や企業が協力してくれました。早淵 ゴミは勝手に触れないので、自治体の協力が不可欠です。その集めたゴミで再

生プラスチックの試作品を作るのは企業がしてくれました。各工程では専門家が入り、例えば尾方教授には再生品の色やデザイン、強度などをアドバイスいただいて。私は他の研究者と、エネルギー投入量や資源のフローなどを見る資源循環分析を担当しました。

尾方 この実証事業は今年3月に終了しましたが、今後は参加していた企業が製品化など次のステップへ進めていくのではないのでしょうか。その際には私達も協力していきたいですし、今後は他の自治体・企業でもこのような動きが広がってほしいです。

—ちなみに、早淵教授は今春から環境が変わられたそうですね。

早淵 はい。「洋上風力研究教育センター」の所属になりました。この部局でも、脱炭素エネルギーマネジメント全体に携わります。脱炭素において、風力発電などの再生可能エネルギーは大きなポテンシャルです。日本がパリ協定の約束の数字に近づけるには、もっと再生可能エネルギーを取り入れなければなりません。本学では水素エネルギーの研究も進んでいます。例えば、通常は水素製造の際にCO₂が出るところ、風力発電のエネルギーで水素を作ると一連の工程で「脱炭素」になるんです。このように、私はサプライチェーン全体で見ることが大事だと考えています。



カーボン資源の貯蔵だけでなく、回収のことも考え持ち運びやすさも重視



「家庭用カーボン回収機」について説明する尾方教授。夜間もCO₂を吸収するサポテンから着想し、このデザインに



芸術工学研究所 尾方 義人教授

1991年九州芸術工科大学工業設計学科卒業。デザイナーとして、民間企業に勤めたあと岡山県立大学、大阪大学を経て、2008年より本学芸術工学研究所に。現在は未来社会デザイン統括本部でも、多数の学際プロジェクトを推進。

洋上風力研究教育センター 早淵 百合子教授

2006年京都大学大学院エネルギー科学研究科修了。京都大学エネルギー理工学研究所、国立環境研究所勤務を経て、2012年より本学へ。温室効果ガス排出量の算定を専門とし、パリ協定での排出量審査官などの経験を持つ。



複数アプローチで見えていくことを大切にしています

炭素もですが、複雑化した問題に対し一つの専門性だけでは解決できず、皆でまとめる力が必要です。そこにデザインの的方法論も入れていこうという考え方を学生に教えています。

—藤川教授と共同研究されている「家庭用カーボン回収機」も同じですね。尾方 そうですね。逆に「デザイン」だけでも何もできないし、「家庭用カーボン回収

機の場合は藤川教授やユーザーの意見を取り入れながら考えました(P4参照)。この件ですが、学部・学府を横断するコミュニケーションが多いのが本学のいいところですね。九州大学は日本で学部数が最も多いと言われている大学の一つで、なかでもアートやデザインのアプローチがあるのは本学だけです。さらに芸術工学研究所は理系なので、深く突き詰めたり、横断的に広げたりもできます。複雑な問題にアプローチできるのは、本学や芸術工学研究所の強みであると思います。

—学生もそのような横断的な学びができるのでしょうか。

尾方 基幹教育では他学部学生が芸術工学研究所の教員の授業を受けることも多く、他学部卒業後に芸術工学府に進む学生や、他大学から来る学生も多いです。また、芸術工学研究所を見ても、未来構想デザイン

—「頭がぐちゃぐちゃになる」経験が重要というのは?

尾方 例えば、数学などロジカル思考の授業のあと、私の授業で「模型を作るため粘土を磨く。そんなことが繰り返されると、ある程度の確率で混乱しますよね(笑)。いい混乱をおもしろがれる学生は、複雑な問題にも対応しやすいと思っています。早淵 果敢に挑めるようになりますよね。研究だけでなく、社会に出ればもっと多角的に考えなければいけない場面が出てくるので、一つの専門を極めつつも、こういう指導や教育環境の中で学んだ学生が世界で活躍する人材になると思います。

—頭がぐちゃぐちゃになる「経験が重要」というのは?

未来家で使う日がくるかも



空気中からCO₂を直接回収して資源に変える「家庭用カーボン回収機(模型)」

複雑化していく社会問題は英知を集結させて解決

—尾方教授はどのような「研究を」?

尾方 現在ではデザインが手伝うべき対象が複雑になってきています。先ほどのプラスチックの話のように、一部分を解決しても意味がなく、様々な分野や人と連携しながら全体を考えていく必要があります。脱

優秀な人材を輩出することも「脱炭素」へつながっていく

—「脱炭素」社会の実現に向け、今後の展望を教えてください。

尾方 最近、脱炭素に関連する農学系からの相談やプロジェクトが増えています。農業人口が減っている中で、ロボットなどを使った効率化もありますが、未経験者が農業をしやすいくなるノウハウ(情報デザイン)の確立も重要だと思います。農業において食料や人の問題は複雑かつ切実な問題で、脱炭素も関わることで、今後、芸術工学が役立つ機会は増えていくと感じています。早淵 これから再生可能エネルギーを増やすだけでなく、プラスチックの循環など、資源やエネルギー全体を考えていく必要があります。さらに脱炭素となると、もっと間接的に大きな「脱炭素」の効果があると思います。多角的な視野を持った人材が新しいものを生み出したり、政策や企業で意思決定者になってくれたりすることを願っています。

Challenge!

学際コース[芸術工学]

少しの興味からより深く追求できる楽しさ

共創学部 共創学科 4年
井上 愛理さん



元々デザインに興味があり、九大祭のポスター制作などの経験からデザインの力をつけたいと思ったことがきっかけで、「チャレンジ21」にて芸術工学部(以下、芸工)の授業を履修すると決めた井上さん。高校時代は文系だったので、理系の芸工を受験できませんでした。入学後に芸工の授業を受けることもできると知り、それが「チャレンジ21」の魅力の一つでもあるといいます。

自宅や伊都キャンパスから芸工のある大橋キャンパスまで通うのは大変だったのですが、共創学部は時間割の自由度が高く、オンライン授業をうまく活用することで大橋キャンパスでの大学生活も楽しめている様子でした。

芸工では一眼レフで写真を撮ってポスターを作ったり、チームでアニメーションを作ったりするなど実際に手を動かす授業を多く履修されていたそうです。

最初は制作物のデザインに興味があった井上さんですが、勉強の中でデザインの思考過程にも興味を持ち、卒論制作ではデザイン思考を専門とされた先生に指導していただいているそうです。

総合大学である強みを生かして自分が少しでも興味があるものに挑戦できる制度なので、ぜひ「チャレンジ21」を使ってほしいと語っています。



興味に向かってまっすぐに!

Minor Program Challenge 21

意欲的でチャレンジ精神あふれる学生を応援! 副専攻プログラム・チャレンジ21

修学中の学生たちにインタビュー



九州大学では在籍する学部の専門分野とは異なる学問分野を学修できる「副専攻プログラム・チャレンジ21」というプログラムがあります。今回は本コースに参加中の、意欲とチャレンジ精神あふれる3名の学生に広報課学生スタッフが取材しました。



What's this? 「副専攻プログラム・チャレンジ21」とは何ですか?

21世紀にふさわしい教育プログラムであることを示して名づけられたこの制度は、ほぼすべての学問分野を網羅する専門教育がそろった九州大学の特性を生かし、意欲的で自主的な学修活動を目指す学生を支援する意図のもと、所属学部の卒業要件を満たしながら、それに加えて所属学部以外の学部が提供する授業科目などを履修し、自分の専門分野に加えてもう一つの専門性獲得を目指すというものです。

人文学、教育学、法学、経済学、理学、芸術工学の6コースがあり、「学部ごとの要件に加えて基幹教育科目から2単位以上の修得」の条件を満たせば参加申請が可能となります。また、指定単位の修得や報告会参加など、各コースの修了条件を満たしてコース修了が認定されれば、『副専攻プログラム・チャレンジ21修了証』が九州大学総長から授与されます。

Let's Challenge!

特色ある教育プログラム 「副専攻プログラム・チャレンジ21」

副専攻プログラム・チャレンジ21は令和8年度も募集予定です。詳細につきましては、下記URLにてご確認ください。
<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/faculty/program/challenge21>

問い合わせ 学務部学務企画課教務・学務情報係
gapjoho@jimu.kyushu-u.ac.jp



Challenge!

学際コース[経済学]

理学部 物理学科 4年
チエチヨトキナ マリヤさん

分野を超えた知識が大学生活を豊かに

中学時代、学校の職業体験で社会人の方から話を聞く機会があり、その頃から経済や社会の仕組みに対して興味を持つようになったマリヤさん。普段は物理学という本質的な理を探究する学問を専攻するものの、世の中の基盤である経済や起業についても学びたいと思い、経済学部の授業を履修されたそうです。

経済学の中で、最も興味を持たれているのは「ゲーム理論」だそうです。こちらは、物理学者フォン・ノイマンと経済学者オスカー・モルゲンシュテルンの共同研究によって誕生した理論であり、現代では経済学に広く応用されています。このような分野を

学ぶ過程で身についた幅広い知識や俯瞰的な視座は、将来どのようなキャリアを選ぶにせよ強みになると考えています。また、その考えが学び続けるモチベーションにつながっているそうです。卒業論文はご自身の意思で、物理学と経済学の両方のテーマで執筆する予定とのこと。

「チャレンジ21」を履修する中で、総合大学としての九大の魅力が改めて実感したと話すマリヤさん。同じプログラムの履修者や他学部の知人ができることで、分野を超えた知識と広い視野を得ることができたと話します。そしてそれが充実した大学生活にもつながったと感じており、ぜひ「チャレンジ21」を履修してほしいとすすめています。



学びの意欲がアップしました!

高校時代から食料政策に関心を持ち続けていた田中さん。農業経済学を専門に学びつつ、それを支える教養を身につけたいと考え「チャレンジ21」を履修されたそうです。専門とする農業経済への関心が強まったきっかけは、ウクライナ侵襲。食料安全保障のリスクが顕在化する中で、それに対する適切なシステムを実装するには法学の知識が必要ではないかと考え、「チャレンジ21」では法学を選択しました。

自分の専攻がより立体的に見えてくる学び

「チャレンジ21」の履修中は、関心分野や難度で授業を絞ることを意識し履修を組み合わせ、異なる学部の授業を履修する上で大変だったキャンパス内の移動をこなしていたそうです。

俳句や演劇にも熱心に取り組んでおり、クリエイティブ産業と文化政策という授業では、「チャレンジ21」で学ぶ法学と、部活で取り組む演劇の接点を知ることができたとのこと。「チャレンジ21」を通して特に学んだのは、異なる分野同士の接点。当初の思惑通り、農業と経済との接点を知り、食料政策に役立つ知識を得られただけでなく、舞台芸術と法システムとの接点も新たに知ることができたと話してくれました。

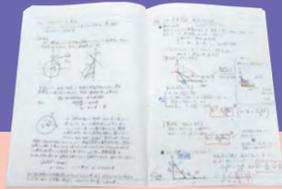


学際コース[法学]

農学部 生物資源環境学科 4年
田中 遼弥さん



学びの記録がびっしり!!



学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。タイトルは取材に協力した各団体の代表者が書いています。個性あふれる手書き文字に、団体活動への熱意を感じます。

躍動

YAKUDOU

ロボット技術研究会

ROBOTICS ASSOCIATION



自らの手でイメージを形にしていく。その楽しさに魅了され、モノづくりに熱中する九大生がいます。今回ご紹介するのは2024年度より公認団体となった九州大学ロボット技術研究会です。モノづくりに打ち込む学生の新しいコミュニティとして活動するロボット技術研究会の創設から現在までの活動について伺いました。

「やりたいこと」を形にするモノづくり

ロボット技術研究会の創設経緯を教えてください。

谷澤 九州大学には多くのモノづくりサークルがあるんですけど、各サークルを引退したOBたちは、引退後も有志が集まりモノづくりを続けている感じなんです。僕もその流れで、モノを作ってはいくつかの大会に参加していました。そんな活動を続けていく中で、開発費や作業場所があったらいいね！という話になりました。大学から公認サークルとして認定を受ければ活動を支援してもらえらることを知り、昨年度「九州大学ロボット技術研究会」として発足させました。一般的なサークルというよりは、なにか作りたいから作り続けている同志の集まり、コミュニティに名前をつけて形にしたのがたまたま僕だったという感じですね。

普段の活動について教えてください。

谷澤 固定された活動日や時間は設けていません。活動の頻度や時間帯は各自の裁量に任せているので、週に2、3日通うメンバーもいれば、毎日熱心に開発を続けるメンバーもいます。活動の流れとしては、まず作りたいモノ、コンテストごとのプロジェクトに、メンバーがやりたい！って入っていく感じなんです。制作するモノは様々なんですけど、多くの場合、動くモノ、ロボット本体のハードウェアや、それを制御する

回路やプログラムを自分たちで設計・開発します。なかには飛行機の制作や、XR(拡張現実)技術の開発をしているメンバーもいます。

ロボット技術研究会ならではの特色を教えてください。

谷澤 めちゃめちゃ自由なことですかね。様々なバックグラウンドのあるメンバーが集まっていることで、モノを作るときに、柔軟なアプローチで開発していくことができる、それが僕たちの良さかなと思います。また、サークルの方針として、毎年出るような大会を決めず、1〜2か月程度で制作してコンテストに挑戦するスタイルを採用しています。様々なモノを作り、多くの試行錯誤を繰り返すことが、技術力の向上や、新しい発見につながると思っています。

コンテストに出すモノができるまでを教えてください。

谷澤 コンテストでは、主催者が提示する課題(お題)をクリアするために、ロボットを制作し、その成果を競います。まずはコンテストのルールを確認することから始めて、課題をどうやって攻略するか、メンバー同士で議論したり、絵を描いてコミュニケーションを行ったりして、アイデアを出し合い、攻略に必要な要素を確認していく。概念設計を進めます。次に、それを実際にこんな機構で作れそうだと、計算して確認する「詳細設計」に移行します。この段階でCADという設計ソフトを使用して3D設計を行っていきます。設計の妥当性や強度などに問題がなければ、実際に組み立てです。組み立て後、動作テストを行い、想定通りに動作するかを確認しますが、多くの場合、

何かしらの問題が発生します。原因を特定し、部分的または全面的に作り直す、この工程を何度も繰り返して精度を高めていきます。最終的に想定通りの動作が確認できたら、細かい調整を加えて完成です！

活動の上での難しさを教えてください。

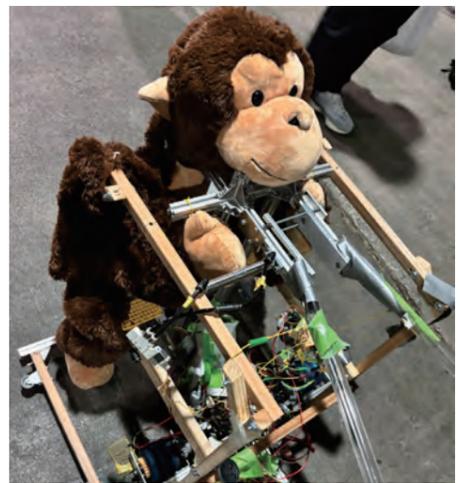
谷澤 活動の中で特に難しいのは、パーツを組み立てる工程ですね。各パーツは個別に開発されるので、それらを組み合わせる際につまづき合わないことが多いんです。それぞれ自分の作ったパーツにこだわりがある中、どの要素を残し、どれを捨てるか、そこがモノづくりの難しさだと感じます。開発費調達もかなり大変ですね。コンテストによっては賞金が出ることもあるんですけど、収支を考慮するとマイナスなんです。それでもモノづくりの楽

高校生へのメッセージをお願いします。

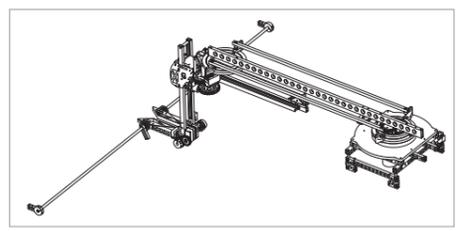
谷澤 高校生の皆さんにとって、大学は高校生活の延長のように感じるかもしれません。しかし、大学は自分の「やりたいこと」を見つけ、それを形にできる環境が整っています。九州大学ロボット技術研究会もその環境の一つです。「ロボット作りは難しそう...」と思う方もいるかもしれませんが、自分は実際にインターネットで調べながら手を動かして様々な技術を学びました。今の時代はインターネットやChatGPTを活用すれば、開発に必要な技術をすぐ得ることができます。皆さんのやる気次第で、いくらでもおもしろいことに挑戦できる環境で、一緒にやるメンバーがそろっていますので、九大に進学して「やりたいこと」が見つかったら、ぜひロボット技術研究会でその夢を形にしましょう！



「キャチロボバトルコンテスト」出場時



NHK「魔改造の夜」出場時のモンスター



現在開発中の設計データ

YAKUDOU CLUB ACTIVITIES & CIRCLE ACTIVITIES



DATA

部員●21名(2025年5月7日時点)
メンバーの学年●博士1年:1名、修士2年:9名
修士1年:6名、学部4年:2名、学部3年:2名
学部1年:1名
活動日●不定

問い合わせ先

HP●<https://q-rogiken.github.io/index.html>
X●https://x.com/quniv_rogiken

取材協力/代表
たにざわ けんた
谷澤 健太さん
システム情報科学府博士1年



みんなで楽しもう!

この記事は広報課学生スタッフが制作しました

●窪田 英仁(理学部4年) ●サン・ジュン・ンガイ・ドミニク(工学部3年) ●柴田 はるな(法学部3年)

世界のキャンパス

海外留学を体験した九大生に、留学先でどんなことを学び、どんな暮らしをしていたのか語ってもらいました。

TO ENGLAND



ふじわら さや
藤原 咲弥 さん
教育学部4年
留学国●イギリス
留学先●パーミンガム大学
期間●2024年9月～12月

PROFILE



BIRMINGHAM UNIVERSITY パーミンガム大学

イギリス中部に位置する名門校で、1900年に設立。現在は38,000人以上の学生が在籍し、160以上の国から訪れた多数の留学生も学ぶ国際的な大学。研究型大学の団体「ラッセルグループ」に加盟しており、様々な研究で高い評価を受けている。ノーベル賞受賞者も数多く送り出し、美しいキャンパスと共に整った教育・研究環境が魅力の大学である。

留学生のごはん事情

学食がなかったため、ランチは友人と学外に食べに出ることが多かった。フィッシュアンドチップスは衣やポテトに好みがあるようで、友人達が行きつけのお店に連れていってくれました。



お気に入りのランチ



During class

授業は講義とゼミの2コマ1セットが基本。留学生が多く、国際色豊かな環境の中で、様々な人や意見と出会うことができました



湖畔にある寮で暮らしていました。キャンパス全体が自然に囲まれており、リスやカモメを見かけることが多かったです

小 学校からずっと福岡で過ごしてきた中で、新たな環境に挑戦してみたいと考え、英国への留学を決意しました。留学先では、教育学や社会学の授業を履修しました。

休日の過ごし方、留学して良かったこと

休日はロンドンやヨーロッパ各国へ出かけました。日本と比べて交通機関の遅延や連休が多く、見知らぬ人々と助け合う場面がよくありました。持っている情報を共有し、同じように困っている人を見かけたら声をかける。言語や国境を超えた優しさを感じました。



パーミンガムはクリスマスマーケットが有名で、その規模はイギリス最大級だそう。移動式のメリーゴーラウンドや観覧車もありました

今回の留学を今後どう活かしていきたいか

留学中は「自分は何者か?」という問いに向き合う機会が多かったです。自身の価値観が過去の経験や環境により形作られていることを意識することで、他者との違いを理解する力が養われました。今後も、積極的に新しい経験を重ね、視野を広げていきたいです。

留学を考えている人へメッセージ!

少しでも留学に興味があるなら、ぜひ一歩踏み出してみてください。不安を感じることもあるかと思いますが、準備や下調べを通して、背中を押してくれる制度や体験談を見つけてください。現地でも、きっと想像以上の学びや出会いがあるはずですよ。



ロンドンへは電車で1時間半ほどで行くことができます。この写真は、ナショナル・ギャラリーでゴッホ展を観たときのものです

In London

九大から世界へ

KYUDAI GLOBAL STUDENTS

留学生体験記

付き合っていた彼の留学をきっかけに九州大学の大学院に留学し、子育てしながら研究に励んだエジプト人留学生に話を聞きました。

FROM EGYPT



メンナ・ファティーン
Menna Fateen さん
大学院システム情報科学府
情報理工学専攻 博士課程修了
出身国●エジプト

PROFILE

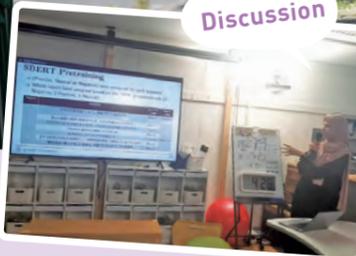
ギザ出身。子どもの頃、米国で10年間暮らす。カイロ大学を卒業後、九州大学大学院に進学。エジプト出身で大学勤務の夫、5歳と2歳の息子の4人家族。アラビア語、英語、日本語を話す。



研究室にはイギリスや中国、韓国などの留学生がいて、英語と日本語でディスカッションをしていました



お気に入りの場所は春日市の春日公園。休日に夫と息子たちがサッカーをしています



Discussion

Q.1 日本への留学のきっかけは?

元々日本に興味があり、中学生のときに学校で日本の着物や富士山、焼きそばなどについて発表しました。カイロ大学に入学して今の夫と出会い、彼が日本に留学したことや、私が研究していたAIの分野は日本で研究が進んでいることで、私も日本に留学したいと思うようになりました。

Q.2 なぜ九州大学を選びましたか?

彼の留学先が九州大学だったので、大学のことを調べました。すると、私が研究したい分野でいい先生がいたので留学を決めました。私は伊都、夫は筑紫キャンパスで学びました。

Q.3 研究内容をご紹介ください。

カイロ大学では、AIが自然言語を分析する技術NLPについて研究していました。九州大学に来てからはAI×教育をテーマに、前から関心のあった教育分野にNLPの技術を応用し、主に3つの研究に取り組みました。研究室の先生が学習塾と共同研究していたこともあり、生徒の振り返り文や講師の報告文などのデータをもとに、学習状況や成績予測などを行いました。また、生徒のテストの自動採点、生徒に問題の解き方を教えるシステムについても研究しました。

Q.4 九州大学で研究することの魅力は?

まわりの環境と人にとっても恵まれていました。先生方が多くの情報やアイデアを提供してくれて、手厚くサポートしてもらい心強かったです。研究室にはいろいろな国の留学生がいて、いつもポジティブな雰囲気の中でオープンにディスカッションをしていました。私は在学中に産んで子育てしながら研究を続けました。ちょうどコロナ禍でオンライン化が進み、パソコンさえあれば自宅でも研究を進められたので助かりました。

Q.5 留学して感じる日本や福岡の印象は?

日本人は優しくホスピタリティがあり、大学はもちろん、子どもを通して多くの人と出会い、ママ友もできました。日本は自然が美しく、特に桜に心惹かれます。学会で東京と大阪に行きましたが、都会すぎず田舎すぎない福岡が一番好きです。

Q.6 留学後のビジョンは

大学院での研究を生かして、この4月から東京のRecursiveという会社でエンジニアとして働いています。インターナショナルな環境で、教育とAIに関わることができて、やりがいを感じています。福岡の自宅でリモートで仕事ができるので、とてもありがたいです。



在学中、「先導的人材育成フェローシップ事業」のフェローに採用された

Studying

新しい環境に踏み出すことで、自分を知ることができた

AIの研究で教育分野に貢献したい

社会で活躍する九州大学卒業生に、後輩から気になるアレコレを直撃インタビュー!



私が聞きました!
芸術工学府
人間生活デザインコース
修士2年
やまだ たつき
山田 龍輝

どんな事業に
取り組んでいるのか
伺いたいです!

どんな大学生活を
過ごされましたか?

今の会社を志望した
理由は何ですか?

memo
インタビューを終えて

座右の銘は
「人の振り見て
我が振り直せ」
人の振りを見ることで、
自分の価値観をアップ
デートしてよう心掛
けています。



大日本印刷株式会社

たわら あやな
俵 綾那
芸術工学部 2020年卒業
デザインストラテジー専攻 2024年卒業



桜の下で!
大学時代の同期と
花見に行ったとき
に描いたスケッチ



オランダとドイツに留学時の
旅先での1枚。現地での経験
はとても貴重だったと話す
俵さん

仕事を通して「楽しい」気持ちをお届けしたい

大学ではどのような研究を
されていきましたか?

子ども頃から海外に興
味があり、デザインを学びながら現
地で生活してみたかったからです。
多くの貴重な体験をできた一方で、
海外の人でも普段抱えている悩みこ
となどは私と同じと分かり、「みんな
同じ人間なのだ」と偏見を取り払う
ことができました。

現在どのような仕事を
されていますか?

九州大学を目指す受験生や
在校生にメッセージを。

休日は何をしていますか?

自宅ペンタブレットを使い、オリ
ジナルのキャラクターを描きます。
大学時代の友人と美術館や博物館、
展示会などに出掛けることも多いで
す。

卒業生インタビュー



私が聞きました!
法学部
GVプログラム
4年
あざと かなさ
安里 奏咲

どんな大学生活を
過ごされましたか?

弁護士を目指した
きっかけは何ですか?

現在どのような仕事を
されていますか?

memo
インタビューを終えて

TMI総合法律事務所福岡オフィス 弁護士

おがわ としのり
小河 利紀

法学部 2014年卒業



座右の銘は
「操守堅固」
出身高校の校訓の一つ。
目標の達成に向け、堅固
な意志を持って努力・
邁進していきたい
です。

大学ではどのような研究を
されていきましたか?

クライアントから信
頼される弁護士を目指
して、日々強い克
己心を持って業務に
あたっている



青春を満喫!
大学時代はバスケット
ボールに熱中して
いたという小河さん

弁護士として困っている人の役に立ちたい

休日は何をしていますか?

九州大学を目指す受験生や
在校生にメッセージを。

私は後者で(結果的に満足いく就職は
できませんでしたが)早く情報収集を開始す
れば、十分な準備をして成功率の高
い活動ができたと思います。

ATOMIC ART

アトミックアートとは？

「アトミック(atomic)」は「原子の」を意味する英語で、アトミックアートは原子力や核に関連するテーマを扱った芸術作品のこと。絵画や写真、映画、演劇、本、マンガ、テレビ番組、音楽、詩など、世界中に幅広い分野の作品がある。日本には、広島と長崎への原爆投下や福島の大津波に関するアトミックアートが数多くある。

原子力アート研究を通して 戦後80年を考える

日本では小学生の頃から学校で平和学習があり、原爆について学びます。では、他国では原子力や原爆、そして世界平和をどのように捉えているのでしょうか。芸術を通して原子力の影響を研究するガブリエル・デカマス准教授に話を聞きました。

日本のアトミックアートに 衝撃を受けて九州大学へ

1945年、日本の広島と長崎に原子爆弾が投下されて、日本は終戦を迎えました。今年には戦後80年という節目の年にあたります。しかし、世界に目を向ければ、今なお各地で戦争が起こっており、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が人々を震撼させ、世界中が核兵器の脅威にさらされています。言語文化研究院のガブリエル・デカマス准教授は、本学で13年にわたり「アトミックアート(Atomic Art)」に関する研究を続けています。日本ではあまりなじみのない分野ですが、特にロシアのウクライナ侵攻以降、ヨーロッパなどに度々招かれて、研究について話をする機会が増えたとデカマス准教授は話します。

アトミックアートとは、原子力や核をテーマにした芸術のことです。1945年に世界初の核実験「トリニティ実験」が行われ、広島と長崎に原爆が投下されたのを始まりとして、原子力技術は科学やエネルギー



デカマス准教授が2019年に出版した著書『Invisible Colors: The Arts of the Atomic Age』(MIT Press)



様々な芸術を通して 放射能の影響を可視化する

2011年に九州大学に着任し、日本人学生と留学生を対象とした英語や現代トピック、哲学などの授業を受け持ちながら、自身でアトミックアートの研究を続けています。そして、2019年には自身の研究をまとめた著書『Invisible Colors: The Arts of the Atomic Age』(見えない色彩: 原子力時代の芸術)を出版しました。

著書においてデカマス准教授は、芸術の視点から原子力時代を追求し、放射能の研究でノーベル賞を受賞したマリー・キュリーのことをつづった文学や広島と長崎の被爆者による文学、西洋のアーティストによる原爆への反応などを考察。

核実験やウラン鉱山、災害などで放射能汚染された太平洋やアフリカ諸国、福島、チヨルノービリなどの実情を表した芸術、被爆者による作品や原爆投下後の日本の惨状を捉えた写真などは、実は西洋ではほとんど知られていないことを指摘しています。

「放射能は目に見えませんが、芸術表現はその影響を可視化することができます。西洋の芸術はこれまで、放射能による悲惨な影響よりも、それを開発した英雄的な科学者や軍人、象徴的なキノコ雲に焦点を当てた作品が大多数でした。でも、私は、核の現場に居合わせた「世界の被爆者」が発信する芸術に目を向けることで、西洋と東洋のアトミックアートの架け橋になりたい。私の目標は、社会的(世界的)に見えていなかった被害者をしつかりと見えるように

への期待と同時に軍事などへの恐怖をもたらし、文学や写真、映画などあらゆるアートに大きな影響を与えました」とデカマス准教授。ロンドン大学で視覚文化の博士号を取得する過程で、ニューヨークにあるグッゲンハイム美術館やニューヨーク近代美術館、スペインのビルバオ、イタリアのベニス美術館で学芸員と共同研究を行い、ロンドン大学で教鞭を執った経験もあります。元々、科学と芸術の関係に興味があり、ベニスで原子力時代の関係に描かれている芸術家のグループに出会い、原子力のことを表現するアートが存在すること、しかし作品があまり世に出ていないことに衝撃を受けて、アトミックアートの研究にのめり込んでいきました。

十数年前、広島原爆資料館を訪れた際にシヨックを受けたというデカマス准教授。「私はこれまで西洋の立場でアトミックアートを理解していて、勇ましい軍隊やキノコ雲といった表現に焦点を当てていました。でも来日して被爆者の存在をリアルに感じ、もっと知りたくて日本で研究することにしました」

にして、多くの人にその思いを理解してもらうことなのです。これがひいては被爆者に限らず、あらゆる社会的弱者(マイノリティ)に目を向ける姿勢につながることも願っています」とデカマス准教授は研究にかける思いをまっすく眼差しで語ります。

**日本被団協のノーベル賞受賞で
世界が被爆者に関心を寄せる**

2024年、被爆者の立場から、長年にわたり核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会が、ノーベル平和賞を受賞しました。受賞は世界の人たちが被爆者に注目し彼ら彼女らの声に耳を傾ける機会になり、希望を感じました」とデカマス准教授。

九州大学では毎年、肥後裕輝教授が主催の、被爆者を招いての国際平和について考えるシンポジウムや、外国人留学生を対象とした長崎原爆資料館への研修旅行も実施しています。デカマス准教授は、「これからも精力的に研究を続けて、九州大学の学生をはじめ、多くの人たちが被爆者や社会的弱者、今後の社会について考えるきっかけを作っていきたいです」と話します。

国内外問わず、あらゆる視点からのアプローチで、皆が目指す一つの目標、世界平和に向かつて進んでいく。九州大学では「多様性の時代」ならではの、戦争・平和に関する研究も多数行われています。

芸術を通して見えてくる 「被爆者」に光を当てる



アトミックアート例:「原爆の図 第2部 火」丸木位里・丸木俊 1950年 原爆の図 丸木美術館蔵

「女性や子どもも描かれていて、原爆はあらゆる人に被害を与えたことが分かります」(デカマス准教授)



言語文化研究院
ガブリエル・デカマス
准教授
Gabrielle Decamus
Associate Professor
フランス生まれ。フランス・パリのソルボンヌ大学で修士、イギリスのロンドン大学ゴールドスミス校でビジュアルカルチャー(視覚文化学)の博士号を取得。2011年から九州大学に在籍。



原子力アートのパイオニアとして海外での講演実績も多数

Rendre visible l'invisible
Les arts de l'ère atomique



著書の表紙は死者を弔う菊の写真で、キノコ雲を連想させる。写真家の米田知子さんが福島で撮影した作品



①総合研究博物館には多くの人骨が所蔵されている

九州大学総合研究博物館には各地の遺跡から出土した縄文時代から近世にいたるまでの人骨が約4,000体所蔵されています。これらは今から75年前、

古人骨資料の3D化が示す未来の可能性

1950年に医学部解剖学第一講座に着任した金岡丈夫教授(1897~1983)が収集の端緒となり、永井昌文教授(1924~2001)、比較社会文化研究院の中橋孝博名誉教授(1948~)、田中良之教授(1953~2015)など数多くの先生方が連携と発掘調査に携わり収集した西日本各地の遺跡出土人骨です①。日本人の起源を知るために重要な弥生時代人骨を数千体規模で所蔵する、日本で唯一の博物館です。国内・国外のたくさんの方々が、残された人骨からより多くの情報を得、新しいことを発見するために、新しい分析手法を考案し、これらの資料と向かい合ってきました。私がここ数年主体となって進めてきた古人骨の3

D化もその一つです。きっかけは2020年、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、広域移動制限によって外部の研究者による調査依頼が次々とキャンセルになったことでした。どのような事態にあっても研究が決して滞らないようにするために3D化をとにかく推し進める必要があると考えました。そして2024年度、当館所蔵の古人骨資料のうち頭蓋骨についてはあらかじめ3D化を完了することができ、世界的にも類を見ないビッグデータが完成しました②。希望に応じて他機関研究者へのデータシェアリングを進めています。また、3Dデータからレプリカを作成し伊都キャンパスのフジイギャラリー、田川市、糸島市、大野城市NHKなどで「骨格資料に触れることができます」展示や講演会ワークショップを行いました③。実際に触れることで研究者の



③3Dデータから作成した頭蓋骨のレプリカを展示(伊都キャンパスのフジイギャラリーにて)

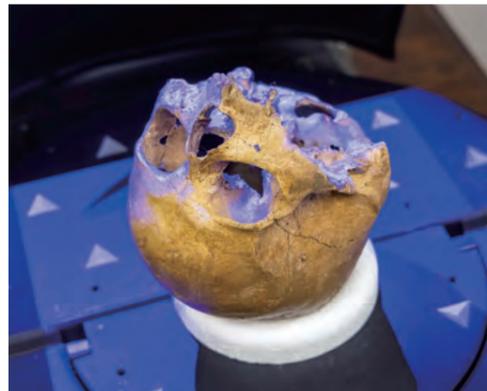
まなざしを理解することができると好評で、この試みはVISION2030のシチズンサイエンスの促進に沿うものでもあります。3D化を行って実感したのは「実物資料を持つ可能性は無敵だ」ということです。古人骨を扱う研究分野でもこれまで多くの技術革新がありました。すべては資料の実在によって初めて実践することができるのです。そして3Dデータの公開とデータシェアリングは新しい解析方法を生み出すだけでなく、これまで研究者のみで閉じられた世界を公開し、多くの人々のミュージアムへの参加を促すものです。ICOMのミュージアムの新定義が示すように、見に行くだけではなく、ともに創り上げるものへ、ミュージアムDXを進めていければと思っています。



Museum Report Vol.33

ミュージアムDX 第一弾

【九州大学総合研究博物館 准教授】
米元 史織



②頭蓋骨の3Dスキャンをしている様子

九大生が考える原子力と平和

デカマス准教授の講義を受講した学生に聞きました
デカマス准教授は、日本人学生と留学生を対象として「学術英語」「思想・倫理・哲学」などの授業を担当しています。先生の授業を受講した学生に自身の考えを聞きました。



STUDENT_01

アトミックアートは世界の平和につながる学問

私は、今でも内戦が続いているミャンマーから来ました。ミャンマーでは、2021年の軍事クーデター以降、戦闘が激化していて、私にとって戦争は他人ごとではありません。ミャンマーは核兵器禁止条約に署名しており、核兵器について学校で教えてもらうこともありませんでした。しかし、本やテレビ、映画などで核兵器のことを知りました。核兵器は一番大きな発明であり、反対に一番ひどい発明とも言えるでしょう。デカマス先生の授業で、アトミックアートについて初めて知りました。核兵器を完全になくすことはなかなか難しいけれど、多くの方がアトミックアートに触れることで、核兵器を減らす方向に進むことを願っています。



共創学部1年
ウエイ・ヤン・リンさん
WAI YAN LIN

STUDENT_02

人間の利益だけを追求しない社会に

科学は元々、自然の摂理を理解したいという好奇心や熱意によって発展した側面があると考えています。しかし、科学が技術、さらにはお金や権力などと結びつくことによって、人間の願いを叶えるための科学へと、方向性が変わってしまったのではないのでしょうか。私が関心を持つ核のゴミ問題も、その一つと考えられます。「人間」のことだけ、「今」だけ、「目先の利益」だけを考えた結果、核のゴミの処理について深く考えないまま原子力発電を生み出し、行き詰まっています。科学哲学や原子力をテーマにした授業が九州大学で開講されていることは、正しい知識を身につけ、自ら考えを深めるのに役立つため、大変有意義だと思います。



共創学部3年
竹中 絢音さん
たけなか あゆみさん

STUDENT_03

コミュニケーションによって世界平和を実現

核兵器は人類が生み出した最も矛盾に満ちた発明の一つだと思います。国家安全保障のための手段として機能する一方で、その安全保障そのものが他者への脅威となり、恐怖と破壊を生んでいます。被爆者の体験により、想像を絶する肉体的苦痛と、世代を超えて受け継がれる精神的トラウマの両方において、核戦争の影響は長く続くと思いが知らされました。世界平和は、国家間のコミュニケーションと協力によって実現できると私は考えます。ドイツの哲学者ハンス・アーレントの「集団行動」という概念は、平和は暴力ではなく集団行動によって得られることを示しています。軍事的抑止力が紛争解決の唯一の方法であってはなりません。



農学部1年
アヴァンティカ・ラマスブ라마ニアンさん
Avantika Ramasubramanian

九州大学農学部同窓会 設立百周年記念祝賀会



(左から)
前農学研究院長 中尾 実樹氏
前農学部同窓会会長 山崎 信行氏
農学部同窓会会長 今泉 勝己氏
農学部同窓会近畿支部長 木村 仁氏
農学部同窓会東京支部長 前田 辰郎氏

祝賀会では次なる百年への門出を祝って
鏡開きが行われた

Faculty of Agriculture

農学部同窓会

九州大学農学部の同窓会は、2024年に設立百周年を迎えました。
今泉 勝己会長と青木 智佐副会長に、歩みと思いを伺いました。



国内15、海外7支部を擁し
設立百年の歴史を誇る同窓会

設立百周年記念事業は
多彩な企画で盛り上がった

設立の経緯をお聞かせください。

今泉 農学部は1919年に九州帝国大学農学部として創立され、2019年に創立百周年を迎えました。同窓会の始まりを「同窓会報」でたどると、1924年に同窓会発会式を行い、在学生が委員を務め、学部長に同窓会会長へ就任いただいたようです。以来活動を続けて、昨年2024年に同窓会設立百周年を迎えました。

昨年、同窓会設立百周年の
記念事業を行われたそうですね。

青木 はい、私が百周年記念事業のワーキンググループ長となり、メンバーと企画立案を進めました。メインの事業としては、2024年10月26日、旧箱崎キャンパスに近い福岡リーセントホテルにて記念行事を実施しました。13時からの記念式典、記念講演に続き、17時10分からは記念祝賀会を開催しました。

講演から祝賀会までの時間を利用して、「旧箱崎キャンパスツアー」も行いました。バス2台に分乗して懐かしの箱崎界隈を回り、更地に残る九州大学総合研究博物館に到着。副館長より説明を受けた後、そ



学生団体の応援団雄渾会が演舞を披露し、同窓会に力強いエールを送った

れぞれ貴重な展示を見て、思い思いの時間を過ごしました。一方、ホテルに残る方に向けて、休憩室では本学写真部に制作してもらったスライドショーを上映しました。かつての箱崎キャンパスの建物や授業風景から、伊都キャンパスでの入学式や九大祭まで紹介した映像を眺めて、参加者同士で思い出話に花を咲かせていました。参加者は100名を超え、行事は和やかな雰囲気でも進み、祝賀会の和太鼓部や応援団の演奏・演舞では大いに盛り上がりました。

記念行事のほかにも、同窓会報では百周年特集を組み、会員名簿も記念版として発行。さらに同窓会報を1号からすべて電子ファイルにして同窓会のホームページにアップし、会員の皆様にご覧いただけるようにしました。

長く、アジア地域から留学生を多く受け入れて、アジアの農学関係の発展に貢献してきました。留学生達が自国に戻り、各国で

支部長として活動してくれています。



農学部同窓会設立百周年記念特集号

留学生が多い農学部は
海外のネットワークが充実

現在の活動を教えてください。

今泉 主な活動は、理事会・評議員会と、年1回定期総会・懇親会を開催し、年1回同窓会報を発行しています。また、会員名簿の発行、学生支援として新入生への記念品贈呈、国際コース修了生への記念品贈呈、学部・学府賞受賞者への記念品贈呈なども行っています。

現在の会員数は約2万2,000名にのほり、官公庁や民間企業、大学など、様々なフィールドで活躍しています。農学部同窓会の特徴としては、国内15支部のほか、海外に7支部があります。農学部は歴史が



第25回学部賞および学府賞受賞者へ記念楯を贈呈

やりがいを感じたエピソードは。

青木 箱崎キャンパス時代には、定期総会・懇親会の折に「うまいもん同窓会」を開催しました。留学生が腕を振るった各国の料理や、大学の農場で収穫したものを提供する店が軒を連ねて、会員や在学生が食べ歩いて談笑する姿が見られました。また、移転前には「さよなら『箱崎農学部』同窓会」と銘打ち、農学部の建物や樹木を見て回る企画もあり、200名以上の参加者でにぎわいました。皆さんが楽しそうに過ごされる姿に触れ、あたたかいメッセージもたくさ

TOPICS

農学部百周年記念交流スペース



2025年、農学部創立百周年記念事業によって建てられた交流スペース。巨大な杉の丸太を使った、旧箱崎キャンパスの「六角堂」を思わせるデザイン

Information
九州大学農学部の同窓会のホームページです。同窓会への参加を希望される方はこちらよりお気軽にお問い合わせください。



農学部同窓会会長
今泉 勝己 さん
1968年卒業

お話を伺ったのは

農学部同窓会副会長
青木 智佐 さん
1990年卒業

海外渡航支援

支援対象：学部生もしくは大学院生

学生が海外の大学などで学ぶことにより、語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・行動力を磨き、異文化に対する理解と国際感覚の醸成を図り、グローバルに活躍する人材として社会に貢献できるようになることを目的とし、渡航費を支援します。

感謝の声



芸術工学部
芸術工学科4年
山田 みらい
トルコ
アナドル大学
期間：2024年10月2日～
2025年1月16日

現地でしか実現できない構想を形に

今回の留学は、現代アート制作における新技術習得と、異文化コミュニケーションを通じて表現力を深めることを目的としました。アジアとヨーロッパの文化が交差する地理的特性を持ち、歴史的・文化的に非常に多様性に富んだトルコでの制作活動は、私のアートに新たなインスピレーションを与えられました。

アナドル大学美術学部ガラス学科は、ガラス加工の機械など、日本では体験できない素材や機材を使用できる点が魅力でした。現地でしか実現できなかった作品の構想を形にすることができ、制作に対するアプローチを広げられました。

また、現地の美術学生や他国からの留学生との交流も深められました。特にエスキシェヒルのイベントにてパフォーマンス型アートの作品発表を行った際は、多様な背景や技術を持つ学生達との意見交換を通じてアートに対する考え方が広がり、固定観念から解放される感覚を味わいました。

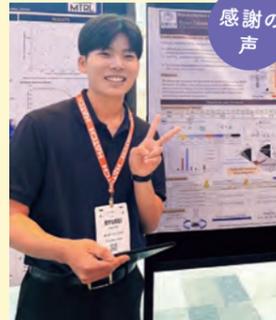
本事業がなければ留学をあきらめていたところですが、ご支援のおかげでたくさんの経験を悔いなくやり尽くすことができました。ご支援に心から感謝申し上げます。

国際会議等参加支援

支援対象：大学院生

学生が国際会議等において研究発表するための機会を増やすことにより国際感覚の醸成を図ることを目的とし、国際会議等に論文を提出し、研究成果を発表するための渡航費等を支援します。

感謝の声



工学府 共同資源工学専攻
修士2年
滝本 琉盛
カナダ
The 63rd Annual
Conference of
Metallurgists
(COM2024)
期間：2024年8月19日～
2024年8月22日

世界中の研究者からフィードバック

私が参加したCOM2024は金属工学・材料工学に関する国際会議で、工業バイオテクノロジー分野における最先端の技術や研究成果についての講演、発表が行われます。

自身の研究テーマである「シアン化に先行する好酸性従属栄養細菌を含む混合菌による炭素質難処理金鉱石の単一パイオ処理プロセスの検討」についてポスター発表を行いました。炭素質難処理金鉱石とは、金が硫化鉱物に閉じ込められている金鉱石のこと。この鉱石は世界の生産可能な金資源の数分の1を占めており、世界的に金資源を支える可能性があります。研究内容について、世界中の研究者から微生物の育成方法、経済性、将来性など多角的な面からフィードバックをいただき、今後の研究における改善点や新たな方向性を見出すことができました。

学会期間中は食事会や交流イベントを通して他研究者と活発に交流でき、国際的な視点とコミュニケーションスキルを得る事が出来ました。

今回の経験は自身の研究者としての質を高め、国際的な研究コミュニティを得ることが出来る貴重な機会でした。ご支援いただいた寄附者の皆様に深く感謝申し上げます。



海外派遣事業について

自国の文化や歴史を知り、自分の考え方を国際社会で主張できる論理的思考力、積極的姿勢や発信できる語学力を兼ね備える学生の国際性を育てるため、海外派遣事業の支援を実施しています。

学生支援のご紹介

INTERVIEW

地雷被害者が出ない世界を目指し「除去作業の加速」を。



1. 「研究者に固執せず、プロジェクトマネージャーとして社会問題を解決する未来も描いている」と話す西村さん
2. 昨年のカンボジア渡航では、対人地雷の使用等を禁じるオタワ条約の第5回検討会議への参加と、シムリアップ近郊で地雷原の視察を行ったという
3. 地雷原の視察でお世話になった、カンボジア地雷対策センター職員のみなさんと

九州大学基金
山川賞
2024年度受賞

理学部3年
西村 齊明



山川賞応募のきっかけは？

西村 入学前に奨学金制度について調べた際に山川賞を知りました。やりたいことを実現するには、ある程度の費用が必要だろうと考えていたので応募しました。

その「やりたいこと」が地雷探知システムの開発だった？

西村 そうですね。地雷について興味を持ったきっかけは中学時代に、アフガニスタンのデザイナーが作った、風力で動くボールのような地雷除去装置の写真を見たことです。同時期に、植物で地雷を感知する欧州のプロジェクトも知り、将来こんなことができたらと思っていました。

山川賞の審査でアピールした点は？

西村 1年時に合成生物学の国際大会iGEMに出場し、パリで発表を行った経験や、その際に実験や研究の基礎をひと通り学べたことなどをアピールしました。

受賞後はどのような活動を？

西村 当初は、無細胞タンパク質合成系を用いた地雷探知システムの開発を目指していたのですが、途中でその社会実装には相当年数を要すると断念しました。ロシアやウクライナで地雷問題が取り沙汰されている中で、より技術的にハードルの低い形で「地雷除去」に貢献したく、現在はアプローチを工学寄りに変え、埼玉の企業とドローンを使った地雷探知システムの共同開発を進めています。地雷除去という目的は変わりませんが、今はさらに「除去の加速」も目指しています。

奨学金の使い道は？

西村 受賞後に別途採択されたプログラムの支援は用途が限定されていたため、国際会議出席や地雷地域視察で行ったカンボジアへの渡航費に山川賞の奨学金を使わせてもらうことができ、助かりました。

将来のビジョンをお聞かせください

西村 地雷除去には1000年かかるといわれていて、僕はその理由は2つあると考えています。1つは、作業のほとんどを人に依存していること。2つ目は探知効率が悪いこと。現状、現場のほとんどで使用されている金属探知機だと金属ゴミも拾ってしまい、地雷探知の確率が低いことが課題です。そこで、人から機械へリプレイスしていくためにドローンを使い、その検知効率を上げるために(地雷だけを探知する)昆虫の触覚を使うなど生物系センサーの搭載を探っていきたいと考えています。もちろん技術開発だけでなく、事業として確立することも視野に入れています。

受験生や後輩にメッセージを

西村 本学を含め日本の大学は自由度が高く様々なことができる環境にあると思います。人生は一度きり。失敗を恐れず、フットワーク軽く行動してほしいですね。

九州大学基金

多くの寄附者のみなさまのご支援により、今回ご紹介している学生を対象にした支援助成事業を年間1億円規模で実施しています。詳しくは九州大学基金のホームページをご覧ください。https://kikin.kyushu-u.ac.jp/



■ 九大生応援基金について

九州大学基金の支援メニューの一つで、山川賞、海外派遣、課外活動支援の3つの支援事業を実施しています。

■ 課外活動支援について

サークルなどの課外活動を活性化するため、施設整備・備品調達などを支援します。

■ 山川賞について

山川健次郎初代総長の名を冠した賞であり、九州大学教育憲章が指向する人間性、社会性、国際性、専門性について優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、次世代を担う若者を育てることを目的とした事業です。



SNSでも
最新情報をお届け!



@kyudaikikin



@iwa1859p

お詫びと訂正

2024年12月に発行しました九大広報130号のP.22「令和6年度山川賞受賞者のみなさんをご紹介します!」につきまして、福寺航大さんの記事に編集上の誤りがございました。以下のように訂正し、ここに謹んでお詫び申し上げます。

誤:歴史と自然に揺られる太平洋島嶼地域を紐解き、記録し、未来を紡ぐ
正:歴史と自然に揺られる太平洋島嶼地域と紐解く、記録する、未来を紡ぐ

九州大学キャンパス周辺を探検しよう!

九大Walker

筑紫
キャンパス
編

LET'S GO!



九州大学筑紫キャンパス周辺の人気店から穴場の店まで、多彩なスポットをご紹介します!

CHIKUSHI CAMPUS



九州大学筑紫キャンパス
【住】福岡県春日市春日公園6-1
【交】JR大野城駅より徒歩1分、
西鉄白木原駅より徒歩9分

先端科学の融合拠点は
閑静な暮らしやすい街

先端研究を担う施設を擁し、物質、環境とエネルギー共生型社会の実現を目指す教育・研究拠点となっている筑紫キャンパス。キャンパスは春日市と大野城市の閑静な住宅街に隣接しており、周辺には文庫施設や、球技場施設等を持つ春日公園など憩いの場も。最寄りのJR大野城駅からJR博多駅まで約15分、西鉄天神大牟田線白木原駅から西鉄福岡(天神)駅まで約25分と、福岡市都心部へのアクセスも良好。



かわいい
ファッションに
なれる場所!



カラダニラク 厚底サンダル
各¥5,390

軽くて安定感あるサンダルはソックスと合わせてもおしゃれ。ほかにもかわいい靴が揃うので要チェック!



配色フリルトートバッグ
各¥6,589

ボリュームフリルがキュート。A4サイズが入りポケットも多いので通学バッグとしても使えそう!

DATA

【住】福岡県大野城市
乙金3-25-12
【問】Instagramにて
@maisonmarie.apparel
【営】11:00~19:00
【休】日・月

*掲載商品の取り扱いが終了している場合があります

04 MAISON MARIE

アパレル歴30年超のプロが骨格やカラー診断を踏まえアドバイスしてくれるセレクトショップ。リーズナブルな価格に驚くが、それは「全身コーディネートしてほしい」という思いから。服だけでなくアクセサリなど小物まで揃えちゃおう!

03 バニラの実 上大利店

筑紫キャンパスの南に位置する洋菓子店。ケーキ、焼き菓子、チョコレートなど、つついどれでも購入したくなるほど魅力的なラインナップ。ジェラートやコーヒーをテイクアウトして庭のイートインスペースで楽しむのもおすすめ。

DATA

【住】福岡県大野城市
上大利5-15-8
【電】092-595-8228
【営】10:00~18:00
【休】月・火



オレンジ ¥702(右)
キューピスタチオ ¥702(左)
どちらも人気のケーキ。おしはきはもちろん、見た目が美しいのも同店の魅力



フランボワーズヨーグルト
¥660

あと味さっぱりで夏におすすめ!ジェラートは常時約10種類で通年販売

どれにするか決められない!
魅力的な菓子がずらり

店舗前に駐車場があるので車で行きやすい



テーブル席やカウンター席に加え、テラス席もあり



おにぎりの暖簾とおにぎりの看板が目印

01 オニギリ タケシ

2種類の糸島産ブレンド米と有明の良質な海苔を使ったおにぎりは、定番12種類に加え月替りで2種類が登場、テイクアウトが可能だ。店主の実家が酒店だったこともあり、「おいしいお米とおいしいお酒」をコンセプトに、夜はつまみやこだわりの日本酒も楽しめる。

DATA

【住】福岡県大野城市白木原
1-4-1
【電】080-3958-0632
【営】11:30~15:00(L014:00)、
16:30~22:00(L021:00)
*金・土は~24:00(L023:00)
*おにぎりは米がなくなり次第終了
【休】月(祝の場合は翌日)



心を込めて
握っています!

スタッフ 渡邊 さち子さん



ふわふわご飯に
具だくさんの
おにぎりはボリューム満点!

明太子 ¥380、卵黄醤油漬 ¥450、お得な具だくさん豚汁セット ¥360
好きなおにぎり+豚汁セットがおすすめ。店主が母から受け継いだという酒粕入り豚汁はクセになるおいしさ。豚汁セットは小鉢・漬物付き



具がぎっしり!



食べ飲み放題が超お得!

“9”が付く日を見逃すな

カウンター席・テーブル席に加え、テラス席もあり。宴会最大25人まで可



sakevara ロース・ハラミ、ネギコリコリ塩タン、豚バラほか「肉祭り」では定番メニューに加え、サイドメニューで人気のsakevara サラダやとろ〜りTKG、焼肉屋のカレーなども食べ放題

05 酒とバラの日々

“9”のつく日は「肉祭り」と称し、通常行っていない食べ放題を実施。アルコール飲み放題付きで¥3,500~というから破格だ。「常連の学生さんたちに腹いっぱい食べてほしい」という店主の優しさから始まったこの企画、毎回人気なので事前予約は必須。



ぜひ食べに来てね!

DATA

【住】福岡県大野城市
上大利2-9-48
【電】092-595-2520
【営】17:00~22:30
(L022:00)
【休】不定

店主 田中 流太さん



絶品!元パティシエによる
十割蕎麦&
スイーツに舌鼓



半熟チーズ
ケーキ ¥400
季節のオリジナルスイーツも人気



テーブル席のほか、カウンター席や座敷席もあり

コース梅 ¥1,600
季節によって変わる前菜5品と、単品メニューから選べる蕎麦、そばがき、コーヒーが付く。そばがきは+¥150~200でスイーツに変更可

02 十割蕎麦 さ乃

地元はもちろん、県外からも客が訪れるという名店。十割蕎麦自体のおいしさはもちろん、元パティシエという異色の経歴を持つ店主が考案した「泡そば」「ピスタチオつけそば」など独創的なメニューも好評。食後は自慢のスイーツも楽しんで。

DATA

【住】福岡県春日市
紅葉ヶ丘西2-52
【電】092-586-7464
【営】11:00~15:00
(L014:00)
【休】火



蕎麦とケーキ
両方楽しんで

店主 佐野 泰将さん

9年間にわたる九州大学との産学連携

伊都キャンパスから発信地として
新たな社会モデルを創造する

イマーゴは九州大学の卒業生と修士・博士課程の在籍者が中心となって働く、新しい形のシンクタンク&コンサルティングファームです。九州大学と組織対応型連携をし、キャンパス内で複数の共同研究を行いながら、NTTグループやトヨタグループ、JCBなど国内有数の企業向けにビジネスを行っています。

学生との積極的な共創もイマーゴの特徴です。2017年にはオンデマンド学内バス「aimo」を学生1,500人と運行試験し商用化を実現。2020~23年にはNTTドコモと九州大学の共同研究に際して、4年間取り組んだ実証で延べ4,000人が参加した行動変容アプリを開発しました。2025年からは学習履歴と課外活動データをAIで統合し成長を支援する「Quest Gate」共同研究及び事業化を行っています。今後も九大生のアイデアとイマーゴのデザイン・技術力を掛け合わせ、キャンパスを「未来社会の実験場」とする挑戦を続けます。

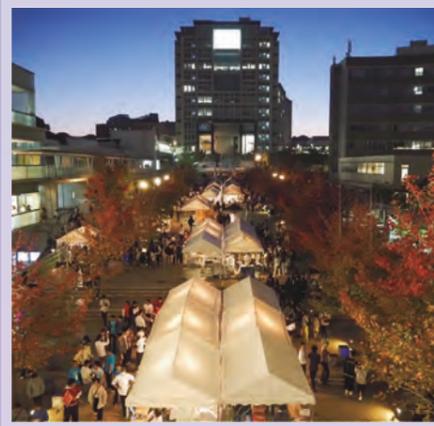
iMago
Business&Design Consulting Firm

就学支援プログラム
「学ぶ」と「働く」の両立

イマーゴでは「学びと働きの両立」と「社会人になっても学び続ける」ことを大切にしています。AIが普及していくこれからの時代において、大学院で修士号や博士号を取得することがあたりまえになって欲しい。この理念に基づき、2025年度から学費負担と勤務柔軟化を組み合わせた「就学支援プログラム」を開始しました。

修士は学費の2割~全額、博士は全額を会社が負担するほか、学業にあわせて業務内容や就業時間を柔軟に調整することで「学びと働きの両立」を支援します。初年度は社員4名（修士3・博士1）が、このプログラムを通じて、給与とは別に学費補助を受けています。

例えば、エンジニア部門の社員である浅田は九大統合新領域学府で情報管理と法務を学び、業務面ではデータガバナンスに学びを活かしています。ビジネスプロデュース部長の松尾は社会人博士を目指し、企画提案と共同研究を推進しながら研究テーマを深化中です。



1日目は悪天候により一部企画の縮小が行われましたが、2日目は天候に恵まれ、約25,000人の方々にご来場いただき、大盛況で幕を閉じました。



第77回 九大祭 紫季彩

Shikisai

2024年11月2日・3日
第77回九大祭「紫季彩」を開催いたしました

200以上の企画団体の出店や展示をはじめ、スタンプラリー企画、高校生向け企画、コンテスト企画、オリジナルグッズ販売など様々な企画を実施しました。



九大祭 OP 演奏



航空自衛隊西部航空音楽隊によるOP演奏

2025.11.1-11.2
第78回九大祭&第22回芸工祭
ぜひお越しください！

スタンプラリー企画



九大祭の会場をめぐるスタンプラリー企画

高校生向け企画



九大生によるトークライブ & 九大生と中学生一対一の受験相談会

コンテスト企画



歌唱力を競うコンテスト企画「九大歌唱王」

人と技術をつなぎ、地域と世界をささえ
心と未来をうごかす価値作りを

ワイヤーハーネス / 医療機器 / 自動機器

Auto System

株式会社オートシステム



広告募集

九州大学では、本誌を含め、企業・団体様等からの
広告を募集しております。

詳しくはこちらのQRより
ご確認いただけます。

※募集内容は、随時更新されます。



よろしければご協力ください！

九大広報の
ご感想をお寄せください！

よりよい広報活動を目指して、
皆さんからの感想を募集します。
「このコーナーが面白かった」
「こんな話題を取り上げてほしい」
などの声をお聞かせください。



21st 芸工祭 PUNK!

2024
11/1-11/3

11月1日の夜から11月3日に大橋キャンパスにて、第21回芸工祭を開催いたしました。本年は大型企画の内3つが、多次元デザイン実験棟の改修後初となる本公演を行いました。降雨対策など課題も多い中、無事に開催でき、多くの皆さまにご来場いただきました。日頃より芸工祭へのご支援に、厚く御礼申し上げます。



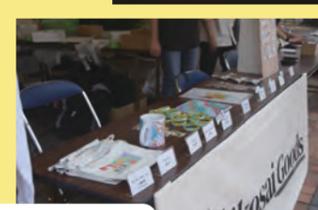
3日間を通して、ライブやインスタレーション、ファッションショーを行いました。各企画が何カ月もかけて準備を行い、音効、照明、美術、映像、衣装など、さまざまな要素が組み合わさった空間を作り上げました。



火祭の様子



噴水周りの様子



九大祭とのコラボグッズの制作



野外ライブステージ

2025年11月1日・2日

九大祭・芸工祭

ご来場お待ちしております！

九大祭実行委員会お問い合わせ先

ADDRESS: 〒819-0395
福岡県福岡市西区元岡744番地
九州大学伊都地区課外活動施設1417号室

TEL: 080-6477-1133
MAIL: contact78@kyudaisai.jp

芸工祭実行委員会お問い合わせ先

ADDRESS: 〒815-0032
福岡県福岡市南区塩原4丁目9-1

TEL: 080-6056-9948
MAIL: qu.geikosai@gmail.com